

<日本史探究第46講> 室町時代④ 【問題編】

(1)室町時代の農業・手工業(教科書:P.123)

①室町時代の農業の特色は、土地の生産性を高める集約化・多角化が進められたことにあった。鎌倉時代に始まった(1)と(2)の(3)は全国に広まり、畿内ではそれに(4)を加えた(5)も始まった。

1: () 2: () 3: () 4: () 5: ()

②応永の外寇おうえい がいこうに関わる外交交渉そうきけいで来日した宋希璟は、『(6)』に(5)を記録している。肥料も鎌倉時代に普及した(7)に加えて、(8)と呼ばれる人糞尿じんふんにょうが普及した。

6: () 7: () 8: ()

③こうした背景には、牛馬耕ぎゅうばこうや鉄製農具の使用や、(9)などの揚水具ようすいの発達、さらに気候の変化に対応して作付けの時期を区別した、(10)の品種改良があった。また、中国からもたらされた(11)という大量収穫品種が、西国を中心に普及した。

9: () 10: () 11: ()

④また手工業の原料として、それまで自家用に栽培されていた、和紙の原料の(12)、灯油の原料の(13)、麻織物の原料の(14)、染料の原料の(15)などの栽培も盛んになり、(16)として流通するようになった。

12: () 13: () 14: () 15: () 16: ()

⑤室町時代には、農民の需要にも支えられて地方の産業が発達し、様々な特産品が生産されるようになった。(17)などの(18)、(19)の(19)紙、(20)の(21)紙がみ、(22)の(23)紙がみ、岡山県の(24)焼おわりや尾張の(25)焼などが有名であった。

17: () 18: () 19: () 20: ()
21: () 22: () 23: () 24: ()
25: ()

⑥戦国期には、綿花の栽培が(26)を中心に始まり、鉄砲の火種などに(27)が使用された。刀剣職人のことを(28)というが、刀剣は国内向けだけでなく、(29)貿易の輸出品としても生産された。また、同じ鉄製品でも鋏くわ・鍋などを作る職人を(30)という。

26: () 27: () 28: () 29: ()
30: ()

⑦製塩業せいえんでは、満潮時に海面より高い場所に、浜辺で汲んだ海水を運び、砂地にまいて塩分を付着させる(31)が一般化した。砂浜を堤で囲み、潮の干満を利用して海水を導入する(32)も始まった。近世には大規模な土木工事を行う(33)が普及するが、それ以前の形態を(34)という。

31: () 32: () 33: () 34: ()

(2)室町時代の経済(教科書:P.124~P.125)

①特産品の売却や、年貢の銭納せんのおに必要な貨幣の獲得のため、月3回開く(1)から応仁の乱後は6回開く(2)が一般化した。荘官や農民たちは、市で農産物を売却して、貨幣を入手した。これによって、今まで年貢として領主におさめられた農産物の多くが商品として流通するようになった。

1: () 2: ()

②また、(3)商人や(4)と呼ばれる行商人が、都市と近郊荘園村落とを往来した。これらの行商人の中には、炭や薪を売り歩く(5)、鮎あなごや朝鮮鮎あなごを売り歩く(6)などの女性も多かった。

3: () 4: () 5: () 6: ()

③京都などの大都市で(7)を構えた常設の小売店が一般化し、京都の(8)場・淀の(9)市などのような特定の商品だけを扱う市場も生まれた。

7： () 8： () 9： ()

④平安末期から現れた、商工業者の同業組合である(10)の数も増え、公家・寺社を(11)と仰い^{あお}でその保護を受け、本所への納入金である座役^{ざやく}と呼ばれる営業税を納める代わりに販売独占権などの特権を認められた。

10： () 11： ()

⑤公家を(11)とした(12)、神社を(11)とした(13)は特権商人で、全国的な活動を見せる(10)もあった。代表的な(10)に、(14)を(11)とする灯油の原料の(15)を扱う(16)や、(17)神社を(10)とする(17)社(18)座、(19)社を(10)とする綿座^{わた}などがある。

12： () 13： () 14： () 15： ()
16： () 17： () 18： () 19： ()

⑥貨幣は、従来の(20)とともに、(21)貿易で輸入された(22)通宝・(23)通宝・(24)通宝などの(25)が使用された。このうち標準貨幣として最も流通したのは(26)通宝であった。

20： () 21： () 22： () 23： ()
24： () 25： () 26： ()

⑦しかし、需要の増大とともに民間で^{ちゅうぞう}鑄造された、^{そあく}粗悪な貨幣である(27)も流通するようになり、^{あくせん}悪銭として嫌われた。そうした悪銭の受け取りを拒み、良質の^{せいせん}銭(精銭)を選ぶ(28)が商取引で行われたことで、円滑な流通が阻害された。

27： () 28： ()

⑧そのため幕府・戦国大名などは、悪銭を指定して流通を禁止したり、悪銭と精銭の混入比率を定めたりした(29)を出して、商取引の円滑化を図った。

29： ()

⑨貨幣経済の発達、金融業者の活動も促した。当時、(30)などの富裕な商工業者には、(31)と^{こうり}呼ばれる高利貸業^{かし}を兼ねていた者が多く、これらの(32)を保護・統制するとともに、営業税の(33)は幕府の重要財源となった。ちなみに鎌倉時代の高利貸業者は(34)である。

30： () 31： () 32： ()
33： () 34： ()

⑩地方産業が発達すると遠隔地取引も活発になり、遠隔地商人のあいだでは、現金の輸送の代わりに(35)と呼ばれた手形で決済をおこなう(36)が利用されるようになった。

35： () 36： ()

⑪室町時代には、海・川・陸の交通路が発達し、(37)の往来も頻繁になったことで、鎌倉時代に発達した年貢の保管や運送にあたる業者の(38)は、委託された貨物を手数料を取って売りさばく(39)に発展した。

37： () 38： () 39： ()

⑫多量の物資が運ばれる京都への輸送路では、(40)・(41)と呼ばれる運送業者も活躍した。

40： () 41： ()

(3)戦国大名の出現(教科書：P.132~P.133)

①応仁の乱後、地方では守護代や国人が台頭し、やがて守護の支配を脱して領国を作り上げ、独自の支配を確立する者が現れた。これを(1)という。

1：()

②(2)は、室町幕府から与えられた権限によって領国の支配を確立していたのに対し、戦国大名は、多く下剋上などの実力行使で(3)[(3')]を形成し、自らの力で支配領域を拡大していった。

2：() 3：()

③都では、1493年、管領細川政元が、10代将軍足利<4>を廃して足利<5>を11代将軍に擁立する(6)が起こった。

4：() 5：() 6：()

④以後、幕府の実権は細川氏が握っていたが、下剋上の風潮が強まり、管領細川晴元が、家臣の<7>に追放された。その後、<7>もその家臣<8>によって実権を奪われた。さらに<8>は<7>の死後、三好氏を滅ぼし、13代将軍足利<9>を襲って自殺に追い込んだ。

7：() 8：() 9：()

⑤関東では、(10)年、永享の乱(第44講)で自害した<11>の後を継ぎ鎌倉公方となった<12>が、不和となっていた関東管領<13>を謀殺した(14)が起こった。

10：() 11：() 12：() 13：()
14：()

⑥幕府の追討を受けた<12>は、(15)国(16)に移り反抗を続けたため(16)公方と呼ばれ、幕府から派遣された、将軍足利義政の兄<17>は(18)国(19)にとどまったため(19)公方と呼ばれ、対立していた。

15：() 16：() 17：() 18：()
19：()

⑦関東管領の上杉氏も、(20)・(21)の両家に分かれて争うようになった。

20：() 21：()

⑧この混乱に乗じて15世紀末、京都からくだった<22>は(19)公方を滅ぼして伊豆を奪い、ついで相模に進出して小田原を本拠とし、子の<23>・孫の<24>のときには、関東の大半を支配する大名となった。

22：() 23：() 24：()

⑨北陸地方では越後の守護代<25>が、関東管領上杉氏を継いで<26>と名乗り、甲斐の守護出身の<27>と信濃の支配をめぐり5度も(28)で戦った。

25：() 26：() 27：()
28：()

⑩越前では、守護代の<29>孝景が守護(30)氏を倒し、(30)氏は尾張でも守護代(31)氏に倒された。中部地方ではこのほかに、美濃で<32>が、守護の(33)氏を倒した。また(34)の守護出身の戦国大名である<35>は遠江・三河を領国化した。

29：() 30：() 31：() 32：()
33：() 34：() 35：()

⑪中国地方では、守護大名として権勢を誇った(36)氏が、16世紀半ばに重臣の<37>に国を奪われたが、安芸の国人<38>に滅ぼされ、中国地方全土を毛利氏が支配した。

36：() 37：() 38：()

⑫東北では陸奥の(39)氏、四国では(40)氏が国人から身をおこして、広大な領国を形成した。九州では、薩摩を中心に九州南部を広く支配していた(41)出身の(42)氏と、豊後を中心に九州北部に勢力を伸ばした(43)出身の(44)氏が特に優勢であった。

39：() 40：() 41：() 42：()

43：() 44：()

(4)戦国大名の領国支配(教科書：P.133~P.134)

①戦国大名は、新しく服属させた国人たちとともに、各地で成長の著しかった地侍を有力家臣の指揮下に配属する(1)を採用した。

1：()

②そして、これらの国人や地侍らの収入額を、錢に換算した(2)という基準で統一的に把握して、その地位・収入を保障する代わりに、彼らに(2)に見合った一定の軍役を負担させた。これを(3)といい、戦国時代の軍事制度の基礎が固まった。

2：() 3：()

③戦国大名の中には、領国支配の基本法として(4)を制定する者も現れた。その内容は、御成敗式目などを手本としており、中世法の集大成的な性格を持っていた。

4：()

④(5)の(6)氏の「(7)」には給地の売買の制限や、理非にかかわらず争いの当事者双方を処罰する(8)が含まれ、(9)の(10)氏の「(11)」には婚姻の許可制が定められた。

5：() 6：() 7：()

8：() 9：() 10：() 11：()

⑤また、(12)の(13)氏の「(14)」には城下町の(15)へ集住することが定められた。農民に対しては、陸奥の<16>が定めた『(17)』に逃散の禁止や、犯罪者の親族も連帯して処罰する(18)制や同じ郷村に住む者も処罰する連座制が規定されている。

12：() 13：() 14：() 15：()

16：() 17：() 18：()

⑥戦国大名は、新たに征服した土地などで(19)をしばしば行うことで、農民の耕作する土地面積と年貢量などが(19)帳に登録され、大名の農民に対する直接支配の方向が強化された。この検地の方法は、領主・名主に自己申告させる(20)であった。

19：() 20：()

⑦戦国大名は、領国内の振興にも力を入れた。城下町に重臣や商工業者を集住させ、座を撤廃して、市場税などを設けない(21)令を出して、自由な商売を奨励した。

21：()

⑧また、輸送・流通の円滑化のため(22)を撤廃し、宿駅や伝馬の交通制度を整えた。鉱山の開発も盛んで、島根県の(23)銀山・兵庫県の(24)銀山や甲斐・(25)の金山が開発された。

22：() 23：() 24：() 25：()

⑨ほかに、<26>によってかまなしがわ釜無川に築かれた(27)のような、大河川のちすい治水・かんがい灌漑などの大事業も行われた。
26：() 27：()

(5)室町時代の都市の発展(教科書：P.135~P.136)

①戦国大名の支配が進んでくると、(1)を中心に領国経済圏が形成された。(1)には、朝倉氏の(2)(越前),北条氏の(3)(相模),大内氏の(4)(すおう周防),今川氏の(5)(駿河),上杉氏の(6)(越後),大友氏の(7)(豊後),島津氏の(8)(薩摩)などがある。

1：() 2：() 3：() 4：()
5：() 6：() 7：() 8：()

②寺社を中心とする(9)まち町には、伊勢神宮の(10)、えんりやくじ延暦寺の(11)(近江)、ぜんこうじ善光寺の(12)(信濃)などがある。
9：() 10：() 11：() 12：()

③同じ宗教都市でも、(13)宗[(14)宗]の町は、(15)と呼ばれ、れんにょ蓮如がほんがんにじ本願寺の(16)道場を開いて布教の拠点とした(16)(越前),(16)を退去した蓮如が1478年から数年かけて本願寺を再建した(17)(山城),1496年,蓮如が淀川の近くに(18)本願寺を開いて発達した(18)(せつづ摂津),(19)(加賀),(20)(かわち河内),(21)(大和)などがある。

13：() 14：() 15：() 16：()
17：() 18：() 19：() 20：() 21：()

④都市の中には、自治が行われた所もあった。にちみん日明貿易の根拠地として栄えた(22)(いずみ和泉)や(23)(ちくぜん筑前)、さらに(24)(摂津)、(25)(伊勢)、門前町の宇治・山田の外港の(26)(伊勢)などがある。

22：() 23：() 24：() 25：() 26：()

⑤特に(22)は36人の(27),(23)では12人の(28)と呼ばれる豪商の会議によって市政が運営された。

27：() 28：()

⑥一方、京都のような古くから続く政治都市でも、富裕な商工業者である(29)を中心とした都市民の自治的団体である町ちょうが生まれた。応仁の乱で焼かれた京都は、これらの(29)によって復興され,(30)も再興された。町の運営には(31)が担った。29：() 30：() 31：()

⑦このほかの港町には、琉球貿易の根拠地となった(32)(薩摩),(33)(びんご備後),おおわたのとり大輪田泊と呼ばれた(34)津(摂津),日本海交易を支えた(35)(わかさ若狭),(36)(越前),琵琶湖南岸の(37)(近江)、蝦夷との交易拠点となった(38)(陸奥)、広島県のあしたがわ芦田川の洪水で埋没したが1928年に発見された(39)などがある。

32：() 33：() 34：() 35：()
36：() 37：() 38：() 39：()